

【春日市認知症ケアパス】 認知症の進行と対応、受けられるサービス						
※認知症の進行や症状には個人差があります。今後を見通す参考としてご利用ください。						
		認 知 症 の 疑 い(MCI)	ひとりで生活ができる(初期)	見 守 り が 必 要(初期)	手助け・介護が必要(中期)	常に介護が必要(後期)
本人	様子・症状など	☐ 最近のことを忘れるようになる ☐ 新しいことが覚えられず、同じことを何度も「言う」「問う」「する」 ☐ 新しい場所への外出などが難しい ☐ 料理・片づけ・計算・運転等のミスが増える ☐ ささいなことで怒りっぽくなり、周りへの気づかいがなくなる（頑固になる） ☐ 服装など身の回りに無頓着になる	☐ 物のしまい忘れ・置き忘れが増え、いつも探し物をしている ☐ 約束を忘れることがある ☐ 同じものばかり買ってくる ☐ 薬の飲み忘れが目立つ ☐ 日付や自分の年齢が正確に分からない ☐ 買い物で小銭が使えない	☐ 直前のことを忘れる ☐ 薬を飲んだことを忘れる ☐ 季節や場所が分からない ☐ 昼夜逆転している ☐ ガスの消し忘れや鍋を焦がすことがある ☐ 「物を盗られた」と言う	☐ 親しい人や家族の名前を忘れる ☐ トイレを失敗する ☐ 入浴や着替えなどができなくなる ☐ 家に帰れなくなる ☐ 電話や訪問者の対応が一人ではむずかしくなる ☐ 読み書きが苦手になる	☐ 車イスやベッド上での生活が長くなる ☐ 意思疎通が難しくなる ☐ 誤嚥（ごえん）・肺炎をおこしやすくなる ☐ 親しい人や家族の顔を忘れる ☐ 食べ物ではないものを口に入れる ☐ 家の中でも場所が分からなくなる
	できること	・生活習慣病予防等の健康管理を行う ・家庭内で本人ができる範囲の役割を持ち、継続していく（自分のことは自分で行う） ・地域行事やボランティア、趣味等の活動に参加する	・長年の習慣に合わせ、落ち着く生活の流れを継続する ・自分でできることは工夫しながら続けていく ・自分で何か変化を感じたら、かかりつけ医等に相談する		・周囲に手伝ってもらいながら、できることや得意なことを続ける（例：趣味活動、孫に会う、隣人とお茶する等） ・必要なサービスや支援を受けながら、自分らしく過ごす	
家族	できること	・社会参加できるよう働きかける（閉じこもらない生活を続けること） ・認知症や介護について情報を集める ・いつもと様子が違うと思ったら、かかりつけ医や専門医、地域包括支援センターへ相談する	・認知症の症状や認知症患者への接し方について情報収集する ・本人が落ち着く環境を一緒に整える ・家族間で介護について話し合っておく ・ケアマネジャーなどと相談しながら介護保険サービスを活用する ・一人で抱え込まないで、親族・友人や近所の方等に相談し、理解や協力を得られるようにする		・介護は、長い目でみることを心掛け、家族側が体調を崩さないようにする ・気になることや困ったことがあれば、ケアマネジャーや医療機関などに積極的に相談する ・頻回に外出先で迷う場合は、「認知症高齢者等事前登録制度」に登録する（受付窓口：市高齢課） ・今後のことについて検討し、必要に応じて施設に関する情報を収集する ・人生の最終段階のケアについて、早い段階で医師やケアマネジャー等に相談する	
本人・家族を支援する主な制度やサービス等	相談窓口	市役所（高齢課）、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム				
	医療	かかりつけ医、ものわずれ相談医、福岡県認知症医療センター				
	予防	介護予防教室				
		ふれあい・いきいきサロン、地区カフェ、シニアクラブ				
	家族への支援	春日市介護を考える家族の会「ひだまりの会」、認知症カフェ				
	生活支援	地域での見守り、民生委員、社会福祉協議会、認知症サポーター				
		生活支援（食事の宅配サービス、家事サービス、見守り・安否確認サービス）				
		消費生活センター、福祉あんしんサービス		成年後見制度		
	介護福祉	居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）、ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイなど				
		小規模多機能型居宅介護など				
住まい	自 宅	福祉用具、住宅改修、住宅改造				
		サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなど		グループホーム		特別養護老人ホーム 